

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム 青い鳥

ユニット名 やいろ・おおり(2ユニット共通)

自己評価実施年月日 平成 20 年 1 月 17 日

記録者氏名 荻谷 貢

記録年月日 平成 20 年 1 月 18 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	誰からも見え易い場所に提示し、復唱を行うなど浸透化を図っている。また、理念に追加する形で全員で（BS法）作成した短期目標も期間を定めて実施している。また、地域密着サービスに対し更なる地域に溶け込む為、地域交流担当職員も設け取り組みを図っている。	○	今春には、隣接事業所がオープンすることもあり、隣接事業所に併設される地域交流スペースの活用計画を事業所全体で企画し「地域へ出て行く」「地域を迎える」を更に強化する運営を心掛ける。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアの実践＝理念の共有化であり、日々のケアについての話し合い、担当者会議等を通じての更なる浸透を図っている。	○	理念だけではなく、スタッフのモチベーションが維持できるよう、今後も皆で話し合い短期目標も作成し、その時その時に合ったケアの実践となるよう継続して実施する。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域に対しては、運営推進会議、地域向け勉強会や地域行事等を通じて、当ホームの理念について浸透化を図っている。家族の方々に対しては、運営推進会議や家族会、更には入居契約時にも理解していただけるよう機会を図っている。また、家族の方々に対してはケアプランの説明時にも理解の機会を図っている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩の場面でも交流の機会をとらせていただいている。また、近所の農家の方より野菜の出荷（袋詰め等）も参加させていただいており、毎日の交流が自然に保たれている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への参加、更には地域公民館でのホーム主催の勉強会も実施している。また、ホームでの夏祭りにおいては、毎年参加者が増えており、昨年は120名以上の参加いただける祭りが開催できた。	○	平成20年の夏祭りは、隣接事業所との合同での実施となるため、更なる地域との交流の強化を図る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	上記にも記載したが、地域交流担当職員を中心に地域住民の方に対し勉強会を実施している。更には、ホームヘルパーの実習・専門学校の実習、養護学校の実習、開設者研修の受け入れ等を行っている。	○	地域向けの発信の情報を本年は認知症研修・研究センターからの情報を活用し更なる地域貢献を図る。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で実施することにより、更なる気付きが芽生え、また振り返りの良い機会となることを理解している。また、外部評価を通じ第三者からの気付きの機会を得ようとポジティブに捉えている。	○	自己評価実施にて、スタッフのスキルアップを図れる機会とし、GHのあり方について再認識を今後も図る。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催当初はホーム側からの報告や情報の発信が主体であったが、会を重ねることにより地域の方からの貴重なご意見や提案をいただくようになり、ホームの運営に非常に有意義な機会となっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南国市GHの連絡会の事務局のような立場もあり、市との連携の中で市内GHのサービス向上等について企画を図らせていただく等、交流の機会を多くとらせていただいている。	○	保険者との連携は非常に重要であり、更なる信頼関係を形成できるよう努める必要がある。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社外での研修等（実践者研修・管理者研修・リーダー研修・指導者研修等）にて学び、更には伝達講習にて学びの機会を図っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年実施される左記の勉強会に複数名参加し、理解を図ると共に、担当者会議においても身体拘束防止についても理解の徹底を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を十分にとり、理解していただいたことに対しても同意書をとっており、更には契約後にも常時不明な点が起きてきた際はご説明させていただき旨も伝えている。これまでに苦情やトラブルはおきておりません。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のコミュニケーションの中で利用者の意見、不満、苦情を引き出せるようサポートを行っており、更には玄関に苦情受付の提示、また重要事項説明書（外部相談窓口記載）も同じく玄関に提示しており外部に伝えられる体制を整えている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的・不定期に手紙や電話、または来所時、更には状態の変化時等、積極的に報告を実施させていただいている。更には、家族通信の担当職員を決めており、充実化を図っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からの関係作りは基より、家族会を通じて容易に意見が出せるような計画を進めており、現在の家族会会長さんを筆頭に実施中である。また、窓口の提示をしており、部内だけではなく外部相談窓口においても提示し更には入居契約時等に文書を配布させていただいている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な全体会や臨時会を通じて意見が出し易いよう配慮している。また、必要に応じ個別面談を実施している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	マンパワーの不足は当ホームでは考えられないことであり、更に状況に合わせて増員を図る等、実施している。	○ CS及びESは密接な関係である為、継続してスパイラル状態となるよう更なる強化を必要とする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	普段から利用者の方々が両ユニットを気軽に行き来されており、また職員の移動も最小限に留めている。更には、退職者が復職していただける事も鑑みると配慮ができていていると考える。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修の参加は積極的であり、費用もホーム負担にて参加しやすい雰囲気を作っている。例として今期の実践者研修1名、管理者研修2名、指導者研修1名。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	保険者より市内GHの事務局的な立場を依頼されており、管理者の会だけではなく、職員の交流会・勉強会の企画に携らしていただいている。また、同会での当スタッフ参加は毎回、勤務者以外ほぼ全員参加している。	○	管理者は認知症指導者としての位置づけを理解し、自事業所のみではなく交流を含め、同業者に対しても発信を行っていく。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	メンタルヘルスケアの勉強会を実施し介護肯定感やバーンアウトについての調査も実施し更にはコーピングに対してのアドバイスも実施している。また、ホーム及び医療連携HPと合同でスポーツサークルも運営。有給休暇も捨てることのないよう、積極的に消化していただいている。	○	バーンアウトが起きないように、特に脱人格化傾向に注意し、都度コーピングについてのアドバイスを実施する。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回の人事考課を通じ、個々に合った目標を設定し向上心が持てる様努めている。また、人事考課は上司から部下に対してのみではなく無記名で部下から上司に対しての人事考課も実施し管理者等、自らも振り返りの機会としている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の事前面接ではご本人のエリアで機会も持たせていただき、更にホームにもお出でいただき傾聴を心掛けている。	○	例え、待機者が多くても、その都度、相談を真摯に受け止め同業者との連携を通じ、また、地域の連携を図る事が重要と考える。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記同様、話される場所の配慮を十分に行い。傾聴を心掛けている。必要に応じて、利用者本人との距離も配慮する。	○	上記同様。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談後、ユニット職員が集まり事前情報を基に入居判定を行う。入居困難な場合は他機関等の紹介を含め支援を行う。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学を実施し、その際、少しでも雰囲気慣れていただくよう出来るだけ長い時間滞在していただくと共に、入居の際、リロケーションダメージを少なく出来るよう自宅での物品を出来るだけ多くお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ケアのための生活ではなく、生活のためのケアとなるよう職員の意識の周知徹底を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居＝ホームでの生活のみ、とならないよう一緒に利用者を支えるための援助を考えていく必要がある旨を説明している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	状況により家族の想いと利用者の想いの温度差を理解し関係作りや関係の継続性を考慮している。個々により様々な支援を実施している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に自宅まで帰れるよう付き添いを行っている。また、職員の考え方として「今日は6回も帰った」ではなく、「今日は目標の6回行けた」と考えられるようメンタル的な変化を試みている。	○	他県での試みでの「ふるさと訪問」を定期的に行えるよう家族との話し合いを行い、取り組みを検討する。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の表情や仕草、また気分の変化や人的環境における影響を考慮し関係の把握に努めている。更には個々の認知レベルや性格にも配慮し、必要に応じスタッフが仲介役になり交流や助け合いの場面をサポートしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も訪問していただいたり、相談をいただく等、関係継続に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バーバルな部分だけに着目することなく、表情の変化・行動を素早く感じ取ることとし、個々の「今」を大事にできるよう取り組んでいる。	○ アセスメント力の更なる向上を目指す。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の細かな聞き取りは基より、普段の生活の中からも把握に努め、生活歴を尊重するよう努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎月の担当者会議においては、カンファレンスのみを行うのではなく、モニタリングも重要視し検討を行っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の方とは毎月の介護計画の説明の際、意見等をお聞きし、ホーム内でのみプラン完結するのではなく、外部の医療連携担当看護師からも意見をいただくよう配慮している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じての見直しを行い、状態に応じては、必要な関係者と話し合いを持ち臨時的な介護計画の見直しを実施している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基に経過記録を作成し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前からの病院に付き添いを行ったり、突発的な受診においても、本人や家族の要望をお聞きし対応させていただいている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方は運営推進会議をきっかけとし、ボランティアの方は利用者の知人が訪問して下さったり、消防署の方は夜勤明けでホームに立ち寄って下さったり、機会も多く交流を持たせていただいている。	○	ボランティアとの交流の機会を増やせるよう、担当職員との協力体制の更なる強化、エンパワメントを行い取り組みやすい体制の確保を目指す。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネとの密接な関係の維持に努めると共に、訪問理美容やボランティアエステも実施していただいております。また、保険外のサービスにも積極的に支援をしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者だけではなく地域からの相談等を受けた際、地域包括支援センターへの窓口となることもあり密な連携を図れるようにしている。また、管理者が現在、市介護サービス事業所協議会副会長も務めており関係形成に努力している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望医を重要視しており、また在支診医との関係も強化を図れており、適切な医療が行えるように支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者自身の主治医は基より、認知症の専門医が付帯しておられない場合は、ホームが相談できる専門医もおり支援している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに1名看護職員がいるが、医療連携担当看護師は部外におり、日々の状態等について確実な連携は基より、記録も充実化を図っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院との密な連携をとり、利用者の方への環境の変化が起因するBPSDについても話し合いの機会が多く持つことが出来、協力医も利用者や家族の思い等についての配慮が素晴らしく、早期退院及び退院後の継続支援も徹底していただき、ホーム側としても想像以上に連携を図れていると実感している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応の指針を利用当時より説明し、状況下においては、変化の都度、家族・主治医・医療連携担当看護師・ホーム管理者及び職員での話し合いの機会を持ち、また文書を交わすなど希望に基づいた支援、情報の共有化に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	ターミナルの実施においては、職員のバーンアウト傾向となる可能性が高いため、メンタルヘルスケアを行い、協同体制の強化を更に図る。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容の支援だけではなく、エステの訪問もあり、またホームだけの捉え方ではなく家族の方と共に希望の店や希望の化粧品が利用できるよう努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	詳しく嗜好調査を行い、万一嗜好の変化が見られた場合でも職員は即気付くことが出来る。また、無理にいかない範囲で役割を持たれており、職員・利用者共に毎日、同じ物を食べている。また、外食行事も幅広く行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医の許可がある方については飲酒可能であり、おやつ等についても希望を取り入れている。また、誕生日は、月でまとめることなく、その日に実施しており、手作りのケーキだけではなく、ケーキが嫌いな方にはチラシ寿司でケーキ様にしたりと、支援させていただいている。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンの把握に努め、極力オムツは使用しない、安易に使用しない事としている。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっておらず、希望に沿った入浴としている。また、入浴を断られる方に対しては、担当者会議等において、ケアの統一化を図ると共に、成功事例等についても活発な意見にて楽しみが持てる入浴となるよう日々支援している。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠と日中の活動量やイベントの関連性を常時重視しており、不眠傾向の方に対しては、就寝前入浴の試み、時期により人肌にミルクであったり、介護職としてのアプローチを支援している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	安易にホーム行事や枠の中だけで役割を考えるのではなく、外部の資源も利用し支援を実践している。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と検討した結果、原則ホーム管理させていただいているが、近隣商店での私物購入の際は、ホーム出発前より本人に財布を持っていただき、支払いもしていただくようにする等、支援を行っている。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じた支援を行っており、例え数回希望されても支援できるように努めている。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホームで提供を試みたり、家族の方にも協力していただき支援している。例として、先月は、本人希望で家族の方と共に映画館に行かれています。	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も個々の本人、家族の方の諸事情を考慮し両者の温度差がある場合は、積極的に温度差の解消に努め、無理のいかない範囲で支援している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるように努めており、また家族宿泊についても利用者さんの部屋でも宿泊できますし、別途家族宿泊室も準備しており、また宿泊料もいただかない等、工夫している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束は基より、言語的な拘束においても厳粛に捉え周知徹底を図っている。更に、継続できるよう内外の研修も活用している。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初より日中の施錠はしない事が当たり前である。また、上記でも記載したが言語的拘束も禁止しており出て行こうとされる利用者に対し屋内に注意を促すことも好ましくないことを全職員が理解している。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員のポジショニングが配慮され動線が考慮されたつくりになっている。夜間においても夜勤職員の常駐場所を臨機応変に変化させプライバシーを配慮したうえでの安全配慮を行っている。	○ 安全面での強化を図ることにより、オールドカルチャーとならないよう支援する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態を考慮した上で、一律に隠したりせず管理を行っている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメントについて部内・部外で研修を受講している。2ヶ月前には部外でのリスクマネジメント研修に一度に12名参加するなど、積極的に学び実践している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に消防署の協力のもと、救命講習を全員が受講している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な防火訓練は基より、管理者を含め、消防団員が3名おり普段より意識が高い。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	過度な抑制とにならないよう細心の注意を払い、介護計画確認していただく際等、話し合いの機会を多く持っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	客観的情報だけではなく、主観的情報の共有化に努めており、少しの気付き等でも気軽に医療連携担当看護師にも相談が出来る、タイムリーな情報が常に発信されている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを作成し、処方変更時、気軽にDRに聞くことが出来る。また、主治医より目的や副作用についても説明がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄パターンにて管理しており、水分量や運動量も考察し食事の際の食物繊維の摂取も心掛けている。また、便秘時には乳製品を用いるなど促す援助を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアは基より、義歯専用の洗浄器を使用し清潔保持に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量及びおおよその必要カロリーを把握し、また水分摂取量についても注意している。更には、好まないものの際は、個別対応にて別メニューを用意する等、個別対応を実施している。	○	専門家による点検やアドバイスをいただけるようにしたい。専門化をどのような形で受け入れるかを今後、検討する。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策マニュアルがあり、また発生時期には、外出（スーパー等）時、人ごみではスタッフ及び利用者はマスクをしており、手洗いの励行にて予防を実施している。また、訪問者に対しても玄関に感染症予防ポスターを明示し手指消毒を実施していただくようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はまめに購入し長期保管は行わない。また、毎日、器材等については消毒を実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭に花壇を設けたり、郵便ポストを門ではなく玄関前に配置し更には、犬を飼っており近隣の子供達も庭で遊んでいるときもあり、開放感を考慮している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の状況を考慮した上で、しつらえについては季節感を取り入れた上で配慮している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パブリックスペースのみではなく、セミパブリックスペースを配慮しており、利用されている。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	前回の外部評価でアドバイスをいただいた項目です。入居時の家族の方々に対するの努力は以前以上に行い、また家族・本人の了解の下、ホーム側からも好みの部屋・落ち着いた部屋を目指し支援してまいりました。	○ 個々の安心できる空間が出来るよう、更に家族と共に努力を継続する。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内換気扇だけではなく全室空気清浄機を設置している。更には、天気により換気も実施している。また、入院中の部屋についても同様です。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の個々を理解し安全面での配慮、生活範囲拡大の工夫、自立援助について、その都度で実施している。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ニーズ把握を追及し、その都度その都度試行を行い、今・そして今日・これからについて、最良の援助計画を見つけ、計画を立案実践を行っている。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	自由に屋外に出ることができ、ある利用者の方は、以前の生活歴より日課となっていた、庭の掃除ができるよう専用の物品もおいてあり、また、犬好きな方に犬の世話をしていただいたり、園芸の好きな方に合わせ自由に花壇を使っていたり配慮している。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域交流及び社会資源の活用、更にスタッフのスキルアップ。